

4. 附属センター及び附属校園

4.1. 学部・附属交流会議

学部・附属交流会議は、神戸大学の年次計画の実施について、審議、意見交換を行うことを基本とし、2ヶ月に一度のペースで会議を開催した。

審議事項の大きなものは教育実習のあり方についてであった。教育学部の時代より、教育実習と学部の授業が重なる時期には、学生は「二重履修」をせざるを得ないという矛盾があり、長年にわたりその解消を検討してきたが、今年度には「教育実習検討委員会」による改革案を受け、学部・附属交流会議において「二重履修」状態の完全解消を図ることとした。

二つ目の懸案事項は不審者への対応についてである。地域の警察、自治会の協力も得て、児童生徒の安全を確保すること、防犯ブザーやさすまた等の防御用の器具を設置すること、従来から配置している警備員について不足する点がないか、等を審議し、危機管理のあり方については、丁寧な実状点検と意見交換を行った。附属校園の特徴として、電車等を利用した通学が一般的であることを配慮し、安全マップを作成するなど措置した。

三つ目は、附属校園と学部の協力関係の強化についてである。一般学部に附属校園を設置することについては、以前より検討課題として意識されてきたが、今年度には学部・附属コラボレーション委員の実質化と附属校園教員の奨励研究への応募の推進を図った。附属校園からも連携、共同研究を積極的に実施する意向が示された。

その他、附属校園の活性化のための人事交流についても、より交流しやすくなるよう改善措置について審議し、着任者の健康診断書について、転任扱いとすることとした。交流人事と密接に関係する教員給与についても意見交換を行った。特に、地域手当については、附属校園に着任することが不利益を生むという関係になっていたが、全附属校園とも同率とすることができた。

学部・附属交流会議で時間をかけて意見交換した事項は、附属校園の施設、設備についてである。各附属校園とも老朽化しており、改善したい施設、設備は多い。今年度にはいくつかの改善ができたが、老朽化への基本的解決には至らず、財政基盤の確保という根本的な課題は残された。

その他、大学院改革についての情報提供、意見交換を行った。

(評議員(学部・附属交流会議担当) 朴木佳緒留)

4.2. 附属住吉校

中期目標・中期計画の達成に向け、国際教育センターを中核とした組織になるように見直した。国際教育センターの内部に従来の小中学校の研究部・国際部を位置付け、新たにセンター運営会議を設置し、小中学校が共通した研究課題を設定できる条件を整えるとともに、その下にセンター研究部門、センター情報・相談部門を設け、小中学校の連携をより密にした国際教育推進プログラムが開発、推進できる組織とした。

小学校では「豊かな文化を創造する子ども」をテーマとして、多文化社会において自分を発揮し、他者ととともに豊かな文化を創りだしていく児童の育成を目指し、中学校では「国際社会を切り拓くエンパワーメントと学校づくり」をテーマとして、国際社会の中で他者と協同しながら社会に貢献し、主体的に関わっていこうとする生徒の育成を目指した。

また、教科教育を主体とした研究と国際教育を中心とした研究を一本化し、小中学校9ヵ年の中で国際社会に生きる資質・能力の育成に向けて小中合同の研究を開始した。

1. 教育課程

平成 13 年 2 月に国際教育センターを設置し、神戸大学発達科学部の附属学校という特性を生かして多文化共生教育を推進している。国際教育センターカリキュラムを毎年作成し、各教科の単元における評価基準の試案を示している。また、英語学習と総合学習を「国際タイム」と位置付け国際社会が意識できる学習に取り組んでいる。

(1) 英語

国際社会を生きる実践的コミュニケーション能力の育成

英語カリキュラムを開発研究するための小中合同プロジェクトを発足

小学校英語活動の年間指導時数は、小学校 1～2 年 18 時間、小学校 3～6 年 35 時間

ALT による授業の充実と、帰国子女の英語能力の保持及び増進

(2) 総合学習

1・2 年生は、国際文化学習を生活科として実践、3 年生～6 年生は、テーマ総合学習、国際文化学習の 2 部門より実践（小学校）

グローバルで学際的（環境・人間・社会からの追究）な学習活動（中学校）

(3) 学校行事

小学校 4 年宿泊活動（淡路島方面 7/6～8）、小学校 5 年宿泊活動（但馬方面 7/13～15）

小学校 6 年修学旅行（飛騨高山方面 7/5～8）

中学校 1 年校外インターンシップ合宿（蒜山の旅 11/15～17）・史跡巡り（吉野、飛鳥 11/16～18）

中学校 3 年修学旅行（沖縄方面 5/15～18）

不審者侵入時対応訓練・児童引取訓練（6/24）、火災時避難訓練（9/1）

地震時避難訓練（1/17）（小学校）

地震・火災避難訓練（1/17）（中学校）

(4) 教育実習

小学校事前実習 36 名（5/9～10）、小学校教育実習 36 名（9/5～9/30）

中学校事前実習 57 名（5/9）、A・B・C 事前実習 29 名（7/6～7）、中学校卒業生 & D 教育実習 16 名（5/23～6/17）・A 教育実習 26 名（9/5～9/30）・B 教育実習 3 名（10/4～10/28）

2. 研究

(1) 学部共同研究

住吉校国際教育センターの研究部門を中心に、国際的視野で活躍できる「資質」、「能力」及び「共生の心」の育成を目指し、英語コミュニケーション、日本語カリキュラムなど 12 のプロジェクトによる大学との共同研究を推進（小学校）

6 月 10 日に「豊かな文化を創造する子ども・多文化社会に生きる資質の育成」を主題とした学部附属共同研究「教育研究発表会」を開催（小学校）

6 月 23 日に「国際社会を切り拓くエンパワーメントと学校づくり・『みのり』ある教科学習の創造」を主題とした学部附属共同研究「教育研究協議会」を開催（中学校）

発達支援インスティテュートとの「ジェンダー」に関する連携研究の実施（中学校）

J（授業）研・P（プロジェクト）研における大学との連携研究の実施（中学校）

小中学校 9 ヶ年の中で国際社会に生きる資質・能力の育成に向けて、小学校・中学校による合同プロジェクト研究を開始。平成 18 年 6 月 9 日に小中合同で教育研究協議会を開催予定

(2) 研究発表会

- 国語科総合単元学習「情報評価力を高める国語科総合単元学習」(11/8)
算数教育を語る会「今、算数活動について再考する」(11/24)
帰国児童生徒学級30周年・35周年記念行事(2/3)
文部科学省委嘱事業フォーラム「日本語力判断基準表及び診断カード」(2/25)
日本語フォーラム(3/26)
第21回国語科総合単元学習授業研究発表会(11/8)

(3) 奨励研究(採択)

- 小学校国語科における「見ること」と読解力についての考察(小学校)
Webカメラを活用したビデオクリップ自動作成システムによる授業例の提案(小学校)
メンタルフレンドと連携し、子どもの学校適応へのサポート体制を確立する(小学校)
帰国児童の日本語力判断基準表及び診断テスト作成と漢字指導カリキュラムの開発(小学校)
考えるための教具を用いた数学的活動(中学校)
共同学習を支援する再構成型コンセプトマップソフトウェアの活用とその効果(中学校)
国際比較による英語教室の対話分析を通してEFL環境に適した英語授業を探る(中学校)

(4) 学会発表・論文

| 学会等名 | 発表論文名 |
|------------------|---|
| 日本理科教育学会第55回全国大会 | 「Webカメラを用いたビデオクリップ自動作成システムを利用した授業の実践・小学校5年生「結晶づくりにチャレンジしよう」における取り組み」他5件 |
| 日本科学教育学会第29回年会 | 「子どもたちの思考過程の外化と共有化を支援する再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア：小学校第5学年・理科「動物の発生や成長」の実践事例」他8件 |
| 日本科学教育学会研究会 | 「遺伝子組換え食品問題に対する社会的意思決定をテーマとしたCSCLシステム活用型科学教育カリキュラム：2004年度版カリキュラムを学習した小学生の概念的理解とイメージの変容」他3件 |
| 日本教育工学会第21回全国大会 | 「Webカメラによるビデオクリップ撮影が児童の観察活動に与える効果・小学校3年生「植物園をつくろう」における利用事例と評価」他2件 |
| 日本教育工学論文誌 | 「ケータイとWeb共有システムを利用した生活科の学習支援：家庭における児童の取材活動に関する保護者の評価」 |
| 日本理科教育学会近畿支部大会 | 「Knowledge Forumを利用した理科学習の授業デザイン：小学校第6学年「燃焼」に関する2004/2005年度の理解度の比較」他5件 |
| ICCE2005 | “The Effectiveness of a Study Support System Based on Mobile Phones and Web-based Information Sharing: Reporting Activities in a Class for the First Grade of an Elementary School” |

| | |
|--|---|
| World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia & Telecommunications 2005 | “Development of a Fieldwork Support System Using Camera-Equipped Mobile Phones: Two Experimental Studies at an Elementary School” |
| E-Learn 2005 World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, & Higher Education | “ Emotional Effects of Observational Learning in Science Experiments Using Video Clips Recorded by Network Cameras” |
| 日本理科教育学会 理科の教育 第 61 巻第 8 号 | 「伝えるプレゼンテーションから引き込むプレゼンテーションへ」 |
| 平成 17 年度理科教育学会 『運動とエネルギー』 『平成 17 年度日本理科教育学会全国大会発表論文集』 第 3 号 | 「再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェアの実践事例：協同学習を取り入れた中学校 3 年生」 |
| 日本数学教育学会 第 7 回全国算数・数学教育研究大会 | 「生徒がともに「数学する」ことを重視した単元の創造」 |
| 平成 17 年度 第 20 回人間教育実践交流会 | 「2005' 伊丹フォーラム」総合部会 「世界の子どもの命を救おう」 「学際総合をつくる」 |
| 英語授業研究学会 第 17 回全国大会 | 研究・実践発表 「グローバル・リテラシ育成を目指した英語指導・発展的なコミュニケーション活動の実践」 |
| 日本科学教育学会 平成 17 年度全国大会 | 「協同学習を支援する再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェア：生徒からみたソフトウェアの有効性」 |
| 英語授業研究学会関西支部 第 19 回秋季大会シンポジウム | 「よりよい教科書を目指して・作成、検定、使用の立場から教科書を考える」 |

(5) 学部連携

- 「粘土での箱庭「世界作り」による子どもの内的世界の理解」(小学校 2 年対象)
- 「理科実験に関する調査」(小学校 6 年対象)
- 「親から認められる経験と子どもの自己肯定感との関連について」(小学校 5 年対象)
- 「ディズニープリンセス研究」(小学校 4 年対象)
- 「ディベート討論の実施状況・調査」(小学校教員対象)
- 「共感性と身体語彙を使った感情に関する比喻表現」(小学校 3 年年対象)
- 「児童の教師認知に関する日中比較研究」(小学校 5 , 6 年対象)

(6) 近畿地区国立大学附属学校連盟

- 近附連 幼小部会 音楽：公開授業・研究討議 (12/13)
- 近附連 中高部会 音楽：公開授業・講演・研究討議 (10/6)

3. 国際教育センター

(1) 帰国児童生徒教育学級

海外から帰国した 4 年生以上の学齢児童及び生徒の実態や特質に応じて、初等教育を行う。一般学級との相互交流の中で、国際教育の充実を図る。
現在、シンガポール・フィリピン・アメリカ・イギリス・フランス・ベルギー・中国など

からの帰国児童生徒によって構成される。

(2) 国際教育推進プログラム

日本語カリキュラムについては、昨年度に引き続き文部科学省より「平成 17 年度における補習授業校のための指導案（日本語力判断基準表及び診断カード）の研究作成に係る事業」の委嘱を受け、日本語力判断基準表及び診断カード試案の改定、平成 16 年度に作成した判断基準表や診断テストをホームページ上で公開する原型モデルの開発、段階別リライト教材の作成に取り組んでいる。

4. 学校評議員会

第 1 回学校評議員会（10/25）

- ・ 附属小中学校での授業参観や施設設備の見学後、学校評価について協議
- ・ 評価の主旨、評価基準、評価過程、結果の活用などを検討
- ・ 学校評議員による学校評価を実施

第 2 回学校評議員会（2/14）

- ・ 第 1 回の内容を受け個々の討議事案に対し意見交換
- ・ 学校評価の在り方や学校評議員の役割を検討
- ・ 具体的な項目として、安全・環境整備、教師、児童生徒指導、地域・保護者との連携について討議

5. 入学選考，進路指導

(1) 小学校

受験：男 283 名，女 260 名，計 543 名

合格：男 60 名，女 60 名，計 120 名

- ・ 募集要項配布（10/3～11/21），募集説明会（11/22,11/23），願書受付（11/25,11/26）
- ・ 入学選考日程 検査（12/18），検査（12/20），合格発表（12/22）

(2) 中学校

受験：連絡進学 男 46 名，女 53 名，計 99 名

外部進学 男 44 名，女 53 名，計 97 名

合格 連絡進学 男 46 名，女 53 名，計 99 名

外部進学 男 6 名，女 15 名，計 21 名

- ・ 募集要項・願書配布（10/1～1/19），入試説明会（11/12・12/2・12/10）
- ・ 入学選考 A 日程：作文，面接，調査書（1/14）
B 日程・連絡進学：算数，理科，国語，社会試験及び面接（1/20）
- ・ 検査合格発表：A 日程（1/16），B 日程及び連絡進学（1/23）

6. 地域連携，PTA 活動

児童の安全確保を目的とした全校保護者による登校指導開始（小学校）（5/16）

神戸大学アメリカンフットボール部の指導を受けるジュニアレイバンズを小学校 5，6 年児童で結成し，フラッグフット西日本トーナメントで準優勝（小学校）（6/19）

神戸大学応援団総部吹奏楽部「第 38 回定期演奏会」に応援参加（9/10）

クリーンアップ作戦：PTA 地域部と父親の会が中心となり 75 名が参加して通学路を清掃（小学校）（12/10）

6 年奉仕活動：教室及び周辺を含め 6 年児童及び保護者による清掃（小学校）（3/11）

7. 学校保健委員会

小学校：保護者からの子育てに関するさまざまな疑問や悩みを「附小すくすく子育て講座」で取り上げ、臨床心理士であり公立中学校のスクールカウンセラーでもある発達科学部吉田助教授が講演（2/9）

中学校：自分で良くしよう「腰痛・肩こり」をテーマに、村上ひろ子氏による実技指導と講話から健康的な生活について学習（12/7）

（附属住吉小学校長，中学校長 山崎 健）

4.3. 附属明石校園

1. 基本的な目標

(1) 幼稚園の園児 169 名，小学校の児童 476 名，中学校の生徒 360 名に対して，健全で，心豊かでたくましく生きる子どもの育成をねらって，法人化 2 年目も継続した教育実践を行ってきた。そして，幼稚園では 66 名の修了園児，小学校では 80 名の卒業生，中学校では 120 名の卒業生を送り出した。その間，小・中学校では，各 2 名の不登校者が出ているが，9 月に学校カウンセラーが配置され，多面的な対応を通じて大きな事故や問題もなく本校園のねらいが，おおむね達成できている。

(2) 平成 17 年 12 月 9 日に，本校園の幼・小・中が一体となり，久留米大学安永悟教授・城校園長を講師に迎え，「協同学習に関して」・「科研申請について」幼・小・中校園研究全体会を開催した。

(3) 幼稚園では 20 名，小学校では 22 名，中学校では 17 名の教育実習を行った。

2. 教育目標・計画

(1) 平成 12～14 年文部科学省の研究開発の指定を受けた教育課程研究「社会を創造する知性・人間性を育むことをめざした教育システムの開発～子どもの学びから創造する 12 ヶ年のカリキュラム～」での成果である「学びの一覧表」をもとに，生涯学習のための基礎・基本を養うとともに，一人ひとりの個性を最大限に伸ばし，心豊かでたくましく生きていく子どもの育成をめざした教育を 12 ヶ年にわたって一貫して実践した。

(2) 5 歳（幼稚園年長組）と 6 歳（小学校 1 年）が，年に三つの単元学習を通して一緒に活動したり交流したりできた。また，12 歳（中学校 1 年）が，11 歳（小学校 6 年）の学習に参画した実践を行った。その中で，子ども一人ひとりの学びに即したカリキュラムをもとに，幼・小・中の教員が一体となり，異校種間の教員や子どもの交流を深めてきている。

(3) 本校園においては，これまでに「子どもの育ちの記録法を探る」をテーマに幼・小・中の教員全員が，望ましい記録のあり方の研究をしてきた。子どもとの望ましい関わり方を共通理解し，まなざしの共有化を図ることがよりよい一貫教育を可能にすると考え，幼・小・中 12 力年の発達と教育の縦断的研究に取り組んできている。研究項目としては，興味・関心，人間関係・交友関係，自己認識，意欲・根気・素直さ，子どもの変容とその要因をあげ総合的な研究を行ってきた。

3. 研究目標・計画

本校園に設置されている「カリキュラム開発研究センター」の事業は，学部と本校園との緊密な連携を図りながら，学部の理論研究と附属校園の実践研究の相互交流をするために行っている。具体的には，次のような事業を行った。

(1) 発達支援カリキュラム開発と公開

このことについては、前述した「教育目標・計画」での報告を参照していただきたい。

(2) 地域の学校におけるカリキュラム開発の支援

幼稚園では、以下のとおりである。

1) 県内外の公立私立幼稚園教諭・近畿地区内の附属幼稚園等教諭を対象に、本年度も「幼稚園教育を考える研究会」を年間3回(11月・12月・2月)開催した。参加者総数は154名であった。また、参加者から得た協議会の成果や参加者からのアンケートをもとに、専門家育成システムのあり方を探った。

2) 地域の公立私立幼稚園の教員の資質向上を目的とした日常的な参観者に保育を見せるとともに、幼稚園教育のあり方や特色あるカリキュラムづくりのための講話等を行った。年間で、8回の幼稚園訪問があり、参観者は32名、研修者は4名であった。また、他の幼稚園や研修会への講師派遣者は3回であった。

小学校での実施は、以下のとおりである。

1) 10月21日の研究協議会の参加人数は159名であった。

2) 明石市教育委員会と連携して、2月2日に実践交流会を行った。総合的な学習を中心に市内の教師30名余りが参加して、学習リフレクションをもとにした校内研修のあり方を深めた。

3) 年間で、8回の学校訪問(参加者64名)があり、他校への講師派遣者は延べ8名であった。中学校では年間7回の訪問があり、参観者は23名であった。また、他校への講師派遣の延べ人数は7名であった。

(3) カリキュラム開発研究資料の収集と閲覧

及川平治主事の文献収集や情報収集を継続して行っている。特に、平成16年度に幼稚園・小学校の創立百周年記念事業の一つとして、及川平治記念文庫部が設置され、本年度は文献・情報収集が充実し、その整理も進めることができた。

カリキュラムの開発研究資料の閲覧者は、及川平治主事研究だけでなく、戦後のコア・カリキュラムの研究にもわたり、延べ人数として63名であった。

(4) 乳幼児発達支援教室の充実

地域の乳児・幼児の子育てに関わる諸問題の相談と親子の関係づくりに貢献するため、学部教員と連携して研究テーマ「幼稚園における子育て支援プログラムの実践と評価」を設定するプログラムを実施した。

4. 学部との共同研究の目標・計画

(1) 平成15年度に立ち上げられた学部・附属との研究をより密に図るための研究コラボレーション委員との関わりを深めた。また、平成17年度科学研究費補助金(奨励研究)について、幼稚園2件、小学校6件、中学校16件を申請している。

(1) コラボレーション委員と共同で、学部の初等教育論コースの学生に対して、国際理解教育やキャリア教育などについて講義を行った。

(3) 文部科学省の研究開発の成果の一つである「学びの一覧表」とその基礎ベースになる約4,000余りの「学び」とを学部の教員に配布した上で、発達や能力開発の面から検討や指導を依頼し、データの共有化を行った。

(4) キャリア発達支援について

昨年度より中学校では、「自他の価値を感じて生きる～キャリア発達支援カリキュラムの開発」という研究主題を設定し研究を行った。具体的には、本校園が目指す「社会を創造する知性・人間性を身に付けた子ども」の育成に向け、教科学習とキャリア総合学習によるカリキュラムの構築と展開を行った。

本校のいう「キャリア」とは、文部科学省のいう「勤労観、職業観」を含みつつ、「社会との関わりの中での生き方につながる経歴」というものであり、全人的な教育を目指すものである。

このことに関する研究については、キャリア教育の第一人者である筑波大学大学院人間総合科学研究科 渡辺三枝子教授にご指導を仰ぎつつ進めるとともに、城校園長が研究代表となっている萌芽研究「幼・小・中 12 かにわたる一貫したキャリア発達支援教育カリキュラムの開発研究」とも連携している。

中学校では、本研究に関する研究協議会を平成 18 年 10 月 20 日(金)に開催する。また、発達科学部が主体となっているキャリアサポートセンターとの連携のもと、平成 18 年度より(株)「キャリアリンク」と連携し、新たな研究展開を図る方向である。

5. 地域・社会貢献の目標・計画

このことについては、前述 3 の(2)「地域の学校におけるカリキュラム開発の支援」での報告を参照いただきたい。その他としては、以下のようなことを行った。

(1) 本校園全体として、県・市郡町教育委員会に出向き、制度化された初任者研修及び 10 年経験者研修のために附属・カリキュラム開発研究センターが協力できること、また、そのあり方等に関して一緒に協議した。

(2) 幼稚園

兵庫県幼稚園教育研究会東播支部、研究調査会に研究員等として参加し、よりよい幼児教育を目指して、また、教員の資質の向上を目指してともに研究を進めている。

(3) 小学校

明石市教育研究所の自主研修会として、授業公開並びに研修を行ったり、自主研修に参加したりしている。

附小バザール&ステージ(フェスティバル)や育友会主催のバザーなどにも、地域住民の積極的な参加を得て、好評であった。

(4) 中学校

選択総合学習発表会に、地域の住民にも呼びかけ多数の参加を得た。

6. 施設設備の目標・計画

(1) 幼稚園では、よりよい実践を行うため、また、安全確保のために、遊具等の改修・撤去を平成 16 年度に実施した。本年度は、引き続き遊具の安全点検、園庭の整備を行った。

(2) 小学校では、当初平成 16 年度に校舎全面改修が予定されていたので、その後継続して校舎の図面などを作成し、細部まで検討を行っている。また、そのために全面改修が終わった他附属校の情報や校舎建築の資料収集を行っている。

(3) 中学校では、当初小学校に続いて、平成 17 年度に校舎全面改修が予定されていたので、充実した教育環境を創り出すために、校舎改修準備委員会において、継続して資料収集を行っている。

7. 管理・運営の目標・計画

(1) 学校評議員会

本年度も幼稚園5名、小学校5名、中学校6名に学校評議員を委嘱した。そして、第1回は、6月16日に開催し、幼・小・中合同で行った後、各校種ごとの部会に分かれて行った。部会では、学習参観をしたり、学校経営方針や校務分掌について話し合ったりした。

第2回目は、11月10日に合同と各部会ごとに分かれて協議を行った。その内容は、4月からの主な教育活動、子どもの様子及び本校園のあり方などについてであった。

第3回目は、2月23日に、本校園全体で、中期目標・中期計画に沿って本年度を振り返って協議した。

(2) 本校園の安全について

本校園全体

- 1) 明石市の教育委員会並びに明石警察署との連携を保ち、県警の情報をメールシステムにより活用して、情報の入手や連絡などスムーズに行えた。
- 2) 各校種ごとに、これまでに設置した設備、「さすまた」及び「防犯スプレー」等についての使用法についても講習会を実施した。

幼稚園

- 1) マニュアルを確認し、不審者対応並びに防災の訓練を4月、10月に行った。
- 2) 園内の遊具等について、年1回専門家による点検、学期に1回各担任による点検、毎日の当番による点検を行った。
- 3) 明石市教育委員会や明石警察署による不審者情報は速やかに保護者に連絡し、安全面での徹底を図った。

小学校

- 1) 明石市教育委員会や県警からの不審者情報が入るたびに、情報を検討し、さらに新しい情報を得ながら児童に対しては、各担任による指導、保護者に対しては、文書を配布して安全の徹底を呼びかけてきた。
- 2) 安全管理については、防災・震災訓練を年2回行った。阪神淡路大震災と同じ日の1月17日に、安全集会を開催し、当該集会において、神戸大学大学院医学系研究科災害・救急医学分野 石井 昇教授による当時の様子や安全対策に関する講演会を実施した。

中学校

- 1) 明石市教育委員会や県警からの不審者情報のメールによる地域情報を検討した。生徒に対しては、生徒指導・安全指導主任の指導や各担任による指導、保護者に対しては、年度当初に施行された「個人情報保護法」の関係で従来の連絡網等の方法が実施できないので、パソコンや携帯電話のメール（NTT西日本商品名「メルポコ」）を利用して緊急情報等を送信し、受信を確認しながら安全の徹底を行った。
- 2) 年間計画に位置付けていた「地震発生に伴う火災」を想定した「避難訓練」を明石市消防署の指導のもとに実施、水消火器による「消火訓練」も実施した。
- 3) 年度末には「危機管理研修会」を実施し、「さすまた」を使用した侵入者対処等の「防犯訓練」や心臓性突然死を防ぐ「自動体外式除細動器」AEDを使用した「救急救命講習会」も実施した。

8. 学校カウンセラーの配置

本年度本校園にスクールカウンセラーが配置された。このことに伴い、小・中学校では「適応

支援委員会」を、本校園として「校園適応支援委員会」を発足させ、園児・児童・生徒の心身の健康について学校全体で取り組むことができる体制づくりの構築を目指して努力してきた。

なお、スクールカウンセラーは、次の役割を担うこととなる。

- (1) スクールカウンセラーは、友達関係のトラブルや恋愛相談から、長期化した不登校のような問題まで、かなり幅広い問題に子どもとカウンセリングを行う。
- (2) スクールカウンセラーは、保護者とも相談活動を行い、保護者が自分の問題ではなく、子どものことについて相談をするので、保護者とのコンサルテーションを行う。しかし、子育ては、自分自身（保護者自身）の生き方とも深くつながっているため、途中から自分自身の生き方を振り返りながら、子どもについての相談をすることもあることから、それらにも対応する。
- (3) スクールカウンセラーは、子どもと相談をするだけでなく、教師と、子どもの指導・援助方法についての相談も行う。教師が自分のことで相談をするのではなく、子どものことについてコンサルテーションを行う。

（附属明石小学校長，中学校長，幼稚園長 城 仁士）

4.4. 附属養護学校

1．障害児教育の創造的実践と研究に関すること

- (1) 授業計画と教育実践カルテ(個別の指導実態と課題)を作成し、学期ごとの授業実践記録を作成した。
- (2) 指導要録と学期ごとの個別評価(「あゆみ」)を作成した。
- (3) 学校行事(入学式、修学旅行、運動会、成人祝賀会、学習発表会、卒業式など)や学部行事(校外学習、校内合宿など)を実施した。
- (4) 第17回障害児教育研究協議会を発達科学部との共催で11月19日に開催した。
- (5) 研究集録NO.31を発行した。
- (6) 実践と研究をまとめ、青木書店から「コミュニケーション的關係がひらく障害児教育」を出版した。

2．大学との連携に関すること

- (1) 「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律、平成9年法律第90号」による介護等体験実習を年間、67日、214名の学生(発達科学部、他5学部、2研究科)に対して実施した。1人2日間の実習である。
- (2) 障害児教育学コース学生11名の障害児臨床実習を次のような日程で実施した。

| | | | |
|------------|----------|-----------|------|
| 7月6日 | 実習前ガイダンス | 9月12日～16日 | 事前実習 |
| 10月17日～27日 | 本実習 | 10月28日 | 事後実習 |

3．地域との交流・連携に関すること

- (1) 進路指導の一環として、次のような現場実習を実施した。

| | |
|------------|---------------------------|
| 高等部2年生(8名) | 市内授産更生施設と作業所で4日間実施 |
| 高等部3年生(7名) | 6月に更生施設と企業で4日間実習 |
| | 10～11月に更生施設、授産施設、作業所などで実習 |
- (2) 障害幼児親子教室として、地域の就学前障害児の療育と教育相談を以下のように実施した。

| | |
|--------|---------------|
| 年間実施日数 | 10日(月1回土曜日実施) |
|--------|---------------|

参加登録幼児 28名

参加延べ人数 親子 128組

(2) 地域障害者福祉ネットワークである「明石障がい者地域生活ケアネット」に参画して、教育福祉懇談会（7月30日）などを実施した。

(4) 地域に貢献する教育実習として、以下のとおり実施した。

兵庫教育大学大学院生の教育実習（99名） 5月30日～6月10日

(5) 附属明石小学校（2月20日）、三木養護学校（6月22日）との交流学习を行った。

(6) 居住地校との交流（年2回）を行い、明石市内小中障害児学級担任者会や合同行事へ参加した。木の根学園職員との懇談会（8月11日）を実施した。

4．学校運営に関すること

(1) がっこう新聞、学部だより、学級通信を定期的に発行した。

(2) ホームページの更新を継続的に行った。

(3) 学校評議員会を次のとおり開催した

1月15日（日） 9:30～14:00

成人祝賀会見学、学校の現状報告、学校評価についての意見聴取

(4) 安全管理・確保に関して、毎月の安全点検と併せて、不審者対応の防災訓練を明石警察署の協力を得て実施した。（12月2日）

5．施設設備の改善に関すること

(1) 渡り廊下屋上防水改善、外部テラスの改修、特別教室（美術室、音楽室など）空調設備の設置、体育館温風暖房機の取り替え、舞台幕取り替えなど大きく改善された。

(2) 特別教室（美術室、陶工室、木工室、農業室）と玄関天井のアスベスト除去工事が行われた。

6．入学・教育相談、入学選考に関すること

(1) 学校見学会と入学説明会を以下のように行った。

第1回学校見学会 6月13日

授業参観、施設見学、懇談会（参加者44名）

入学相談（教育相談） 9月6日～11月12日

相談件数 小学部15件、中学部9件、高等部7件

入学説明会 10月4日

2006年度児童生徒募集要項発表

神戸、加古川、稲美町教育委員会指導主事が参加

第2回学校見学会 10月11日

授業参観、施設見学、懇談会（参加者80名）

(2) 入学選考は12月2日に実施した。結果は以下のとおりであった。

入学志願者数 小学部4名（うち編入1名）、中学部7名（うち編入1名）、
高等部3名

合格者数 小学部4名（うち編入1名）、中学部5名（うち編入1名）、
高等部3名

（附属養護学校長 廣木克行）